

今年の飼料用トウモロコシの生育状況を調査しました

令和3年7月27日（火）から7月29日（木）までの計5回、飼料用トウモロコシの「収量調査」を実施しました。今年は豚熱の影響を考慮して、事前にイノシシ発生状況の聞き取りを行い、その結果から伊勢原市と平塚市で実施しました。

県内の自給飼料生産に取り組む酪農家にとって、春に播種し秋までに収穫する飼料作物の中で、飼料用トウモロコシは栄養価が高く、最も多くの収穫量が望める作物です。播種は3月下旬から順次行われており、3月下旬から4月上旬に播種したものは、7月下旬から8月上旬に収穫期を迎えました。人が食べる食用トウモロコシは実だけを収穫しますが、牛は、子実だけでなく、茎や葉もすべて食べるので、トラクター専用の大きなハーベスタ（収穫機械）で、トウモロコシ全体を細かく切断しながら収穫します（写真1）。収穫したトウモロコシをサイロに詰め込んで密閉することで乳酸発酵し、牛が大好きな「サイレージ」になります。完成した「サイレージ」は冬場に開封して給与を始めます。栄養価が高く長期保存が可能な「サイレージ」を調製するためには、適期に収穫することが重要です。

そこで当所では今年も「収量調査」（写真2）を実施して、子実の成熟具合などから、適期に刈り取れるように、助言するとともに、収量実績を確認し、次の作付け計画に役立ててもらいます。

今年の調査結果は、昨年と比べて草丈が高く、成熟が進み、適度な水分含量であり、単位面積当たりの収量が多い、非常に良い出来の結果となりました。これは、今年の梅雨が例年と比べて短く、トウモロコシの生育期に天候が良く、子実の成熟も進んだためと考えられます。自給飼料生産に取り組む酪農家の方々も、今回の結果を受け、励みとなったようです。



写真1 「飼料用トウモロコシの収穫作業」



写真2 「収量調査の様子」

畜産技術センターでは、収量調査のほか、酪農家の栽培した自給飼料や完成したサイレージの成分分析をし、その結果から適切な給与量の助言をしたり、地域で行われるサイレージ共励会にも協力をして、酪農家の方々が良質な自給飼料を生産できるよう支援を行っています。